

# みみょう幼稚園だより



令和2年11月号 \*\*\*\*\* <http://mimyo.org/youchien/>

爽やかな秋空の下、子どもたちの笑顔が一段と生きいきと映える季節となりました。実りの秋にふさわしく、大人も子どもも、美しい自然を感じながら、しっかりと身体を動かして、また、旬のご馳走もいただいて、益々、豊かな毎日にしていきましょう。



今月8日(日)は、一年の中でも最も大きな行事の一つである“みみょうフェスティバル”を開催します。コロナ禍における行事の在り方については、保護者の皆様方からのご要望やご意見もお聞きしながら実施をしてきました。運動会のアンケートにも、様々なご感想を頂きました。今回のフェスティバルでは、3部に分かれて参加をしていただくことにいたしました。ゲームコーナーは、前売り券のみの販売、バザー物品販売は対象を在園児家族のみとするなど、いろいろとご不自由もお掛けしますが、楽しさあふれる充実した日にしていきたいと思います。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年の作品展のテーマは『みんなであそぼう』です。子どもたちが、春から、学年やクラスを超えて、継続して取り組んできたあそびの世界を、当日は保護者の皆さんも一緒になって体験して頂きたいと思います。あそびは、つながりながら、発展し続けます。そして、確実に子どもたちの成長を促していきます。あそびの持つ大きな力をお子様といっしょに感じてください。明日からの子どもたちのあそびをより豊かに発展させていくための貴重な時間にして頂きたいと心より願っています。そして、そのためには、何よりも一緒に楽しんで頂くことが一番です。

## 記録に残す vs 記憶に残す

今から30年前(随分前のことですが)、我が家では、長男の初めての運動会を前に、ビデオカメラを買いました。私が仕事で見にいけないということもあり、急遽購入したのですが、当時のカメラは、とても大きくて、撮影はもっぱらお父さんの仕事でした。運動会が終わって、家で見てみますと、かけっこで大活躍(?)したはずの長男の姿は、全く映ってはおらず、「いけ〜!」と叫ぶ夫の声と揺れる地面のみがそこにあったのを懐かしく思い出します。ほとんどは、ちゃんと映っていたのですが、今でも思い出され、話題にのぼるのは、その場面についてです。

今では、いつでもどこでも誰でも携帯電話等で気軽に、可愛い子どもの姿を記録に残すことができるようになりました。行事などの特別な日に限らず毎日の登降園の際や放課後の園庭でも、お子さんに携帯電話を向けておられるお母さんたちの姿もよく見かけます。離れて暮らすおじい様やおばあ様にも、刻一刻と成長するお孫さんの姿を見ていただくこともできるようになりました。もしかしたら、写真を撮らない日はほとんど無い方もおられるのではないかと推察している昨今です。

便利になればなるほど、記念撮影・記念写真という言葉もあまり使われなくなり、特別な日も、少なくなっていくようにも感じられます。その分、時間や場所にとらわれることなく撮影する姿が問題になることもあるようです。幼稚園でも、それを感じるのには、お誕生会や参観日の時です。子どもたちの目線から見ると、見に来てくださったお母さん方の顔の前には携帯電話や小型カメラがあって、そのまなざしや表情を見ることができません。特に発表会の時には、大半の客席の方が携帯電話やカメラを構えておられ、ステージから見た時のその数の多さと光景には、戸惑いを覚えてしまいます。レンズに映る姿は、1人を中心に焦点化されたものがほとんどだと思います。お子さんの活躍を逃さず捉えるのも大事ではありますが、その瞬間にこそ、温かいまなざしや表情を、しっかりとお子さんに向けて、お友だちや先生と一緒に頑張る姿を見逃さないでほしいと思います。また、その姿こそが、お子さんとの大切な記憶としてずっと残るに違いありません。

30年前、夫にさんざん不満を伝えた私なのですが、必死になって息子にまなざしと声援をおくった姿が正解だったのかもしれないと、反省をしているこの頃でもあります。

園長 三上 玲子